

令和3年度
研究紀要

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫

ー 単元シートの活用を通してー

宮城県立石巻支援学校



〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字新立野410-1 TEL0225-94-0200

研究紀要の刊行に寄せて

宮城県立石巻支援学校 校長 三浦 由美

令和3年度も、学校は新型コロナウイルス感染症対応でスタートしました。多くの困難さを抱える年度当初でしたが、最終年度のこの研究をどのように進めて行くのがよいのかを研究全体会で話し合いました。

そこで再確認したことがいくつかあります。それは、

- ① 今年度は、改善した「単元シート」を活用して、教師全員が一人一実践を行い、校内で授業公開し、相互に評価する機会を持つこと。
- ② 実践したことを、自主公開研究会（web 公開）を開催して発表し、広く助言をいただくこと。
- ③ 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 加藤 宏昭氏から本校の研究についての助言をいただくこと。

です。

12月末までに、その全てが実現しました。

文部科学省の加藤調査官には、8月に石巻に来ていただき御講演をいただく段取のところ残念ながら新型コロナ感染症対応のために直前でonlineでの講演会と変更になりましたが、「各教科等の育成を目指す資質・能力における目標・評価の在り方」について大変丁寧な説明をいただき、さらに本校の研究についても多くの先生方が自信を持てるような御助言をいただきました。Web公開では、短期間ではありましたが、全国の皆様に視聴していただき、多くの御助言をいただくことができました。この場を借りて加藤調査官、御助言を賜りました全国の皆様に心から感謝申し上げます。

そして、全ての先生方が「単元シート」を活用しての授業実践をすることができました。まだ改善の余地がある「単元シート」ですが、「各教科等の育成を目指す資質・能力」を意識しつつ、TT間で共に学び合いながら単元及び授業を作っていくという良さを再確認しました。

この研究を始める時に、研究部長の寺門先生と次のような話をしました。「先生方一人一人が少しでもやってみようと思える、一部の先生がやるのではなく全員が参加する、終わった時にやってよかったと思える、結果先生方一人一人の資質向上と子どもたちの成長につながる、そんな研究にしたいですね。」その言葉どおり、研究部の先生方がチームの力で見事にリードしてくださり、多くの先生方が「やってよかった」と思える研究になったと思います。

最後になりますが、関係機関の皆様には多くの御助言をいただきましたことに感謝申し上げますと共に今後とも御指導を賜りますことをお願い申し上げます、まえがきの言葉に代えさせていただきます。

目次

まえがき

研究の概要

I 研究主題・副題	・・・研究紀要 1
II 主題設定の理由	・・・研究紀要 1
III 副題の「単元シート」について	・・・研究紀要 2
IV 研究目標	・・・研究紀要 3
V 研究の内容と方法	・・・研究紀要 3
VI 研究の実際	
-I 授業研究	・・・研究紀要 5
-II 校内研修・調査分析・環境整備	・・・研究紀要 10
-III 研究の公開	・・・研究紀要 16
VII 研究のまとめ	・・・研究紀要 18

あとがき

研究同人

資料編

実践資料 P.1～19	(単元シート, 授業シート等)
学部研究まとめのポスター	(小学部・中学部・高等部)
研究通信 ～学びをつなぐ～	(全46号)

I 研究主題・副題

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫（2年次／2年計画）

－ 「単元シート」の活用をとおして －

II 主題設定の理由

1 特別支援教育の動向

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の推進に伴い、連続性のある「多様な学びの場」における児童生徒の学びを確保していく観点から、特別支援学校においては、小・中高等学校との教育課程の接続や、各教科等の指導内容の整理が求められている。

このような中、学習指導要領が改訂され、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。さらに、各教科に係る見方・考え方は、小学校等の教育と基本的に同じとし、知的障害のある児童生徒のための教育において、各教科等のどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示された。

2 学校の教育目標の具現化

本校は教育目標を「安全・安心な教育環境の中で、一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を、地域の教育資源なども有効に活用しながら行い、健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒を育成する。」と設定している。

平成28年12月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、これからの教員に求められる資質・能力の向上に向けて「学校教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえ、『何のために』『どのような改善をしようとしているのか』を教員間で共有しながら学校組織全体として指導力の向上を図っていきけるようにすることが重要」と述べている。

校内研究において、題材や単元など内容や時間のまとまりの中で育成する資質・能力を明確にした授業改善を行い、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指すことが、教育目標の具現化につながると考えた。さらに、学校組織全体として取り組むため、日々の授業実践を軸にした全員参加型の共同研究を目標に、校内研究を推進したいと考えた。

3 昨年度の研究

本研究は2年計画の2年次であり、昨年度は副題を「教員間で活用する『単元シート』の作成をとおして」と設定した。従来より、本校で活用している指導計画及び反省を記載する資料に、単元で育成を目指す資質・能力を整理するための「単元シート」の様式を新たに作成し、授業実践を行った。

実践後に実施した教員対象の意識調査からは、教科等を合わせて指導する単元において、以前より各教科の目標や内容を意識していることが分かった。また、多くの教員が各教科等の育成を目指す資質・能力を明確にして、単元や題材の計画をしていることが分かった。一方で、意識調査の自由記述欄には、「単元シートを簡略化できないか。」という意見があるなど、単元シートを作成することに対し負担感を持つ教員がいることも分かった。なお、昨年度は、感染症に係る臨時休業のため、短い実践期間であった。単元シートについては、一部を作成して取り組んだ教員が多く、十分に活用できたとは言えない状況である。単元シートの有用性を検証するためには、さらに活用の機会を増やす必要があるといえる。

そこで今年度は、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫に向けて、昨年度の取組をさらに進めて、教員一人一人が実践を積み重ねながら、単元シートの有用性や改善点を検証する必要があると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 副題の「単元シート」について

単元シートは、題材や単元の指導に当たり、本校の教育課程と学習指導要領で示された資質・能力の関連を整理するために作成する資料である。以下のA～Gの7つの項目を記載する（図1）。

【単元シート】指導の形態		アイテムを選択してください。		学部・学年・題材／単元名		時数		期間		～		記入者(TT)	
単元目標						育成を目指す主な教科等の資質・能力							
A 単元の目標						知 【教科:学部:段階】							
						思 【教科:学部:段階】							
						主 【教科:学部:段階】							
B 単元で育成を目指す資質・能力													
時	日付	主な学習内容	○手立て・留意点	教科	単元	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)				
C 学習計画				D 本単元における個別の目標				E メモ欄					
単元の反省(学習内容・手立て・教材・授業時数・指導形態などの視点から)						F 学習評価							
G 単元の反省						学 知 習 思 評 主 価							

図1 単元シートの様式

A 単元の目標

教育課程を基に設定する。Bを踏まえて改善点があれば記載する。

B 単元で育成を目指す資質・能力

学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三観点で設定する。AとBの関連を矢印で整理する。なお、AとBの関連は、教育課程の改善を進めながら整理しているところである。

C 学習計画

教育課程の学習内容を基に、BやDなどを踏まえて、教員間で協働して作成する。

D 本単元における個別の目標

Bを踏まえ、児童生徒の当該段階¹に応じた目標を設定する。個別の指導計画との関連を図る。

E メモ欄

実践をしながら、目標達成に向けた手立てや児童生徒の具体的な様子などを記録する。

F 学習評価

BやDに基づいて、単元や題材において何が身に付いたか三観点で評価する。Gの根拠とする。

G 単元の反省

Fを踏まえ、学習内容・指導時数・指導形態などの視点から単元の指導を振り返る。必要に応じて、教育課程の改善につなげる。

1 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科は、児童生徒の障害の特性を考慮して、内容を学年別に区分せず、小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階で示している。

Ⅳ 研究目標

学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して指導を工夫・改善する。

Ⅴ 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 授業研究（各学部）

- ・教員一人一人が「単元シート」を活用した実践を行う。
- ・教員一人一人が一単位時間の流れを記載した「授業シート」を作成し、学部内の実践を共有する。
- ・各学部において、単元シートを活用した授業研究（事前検討会、事後検討会）を行う。

(2) 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）

- ・研究内容の理解や単元シートの活用に関する校内研修を行う。また、学部研究の取組をまとめてポスター発表を行い、全体で共有できるようにする。
- ・教員対象の意識調査（事前、事後）を行い、結果を分析・考察する。
- ・校務システムやWEBカレンダーを活用して、授業実践の資料や計画を共有する。
- ・研究通信を発行し、校内研究に関する様々な情報や各学部の取組などを共有することで、教員一人一人が校内研究に参画する雰囲気を醸成する。
- ・職員用掲示板や研究資料保存用の本棚を整理・活用し、校内研究に関する情報を共有する。

(3) 研究の公開

- ・研究の推進状況を積極的に公開し、関係機関からの助言を受けながら改善を進める。
- ・WEBを活用した公開研究会を行う。

2 研究計画（2年次／2年計画）

日程	学部研究			研究部
	小学部	中学部	高等部	
4月12日	研修① 第1回研究全体会：校内研究の進め方について共通理解			研究通信の発行、職員掲示板・資料コーナーの整備
通年				
5月1～10日	意識調査（事前）			意識調査の集計・分析
5月10日	研修② 単元シートの作成方法			
6月21日	研修③ 単元シートの活用方法			
6月～12月	教員一人一人の単元シートを活用した実践			WEBカレンダー等を活用した実践状況の共有
8月20日	研修⑤ 事前検討会			小学部研究授業の運営
8月25日	研修④ 専門機関の講師を招いた研修会の開催			
8月31日	研究授業 研修⑥ 事後検討会			小学部研究授業の運営
8月24日		研修⑤ 事前検討会		中学部研究授業の運営
8月30日		研究授業		
9月2日		研修⑥ 事後検討会		
10月2日			研修⑤ 事前検討会	高等部研究授業の運営
10月14日			研究授業	
10月18日			研修⑥ 事後検討会	
12月6～17月	研究の公開（WEB公開）			
12月14～24日	意識調査（事後）			意識調査の集計・分析
1月27日	研修⑦ 学部研究のまとめ			学部研究に関するポスター発表
1月31日	研修⑧ 実践の共有（他学部）			
3月	研修⑨ 第2回研究全体会（研究のまとめと次年度の研究テーマに関する協議）			研究紀要の発行、次年度校内研究の計画

3 研究構想図



4 研究組織

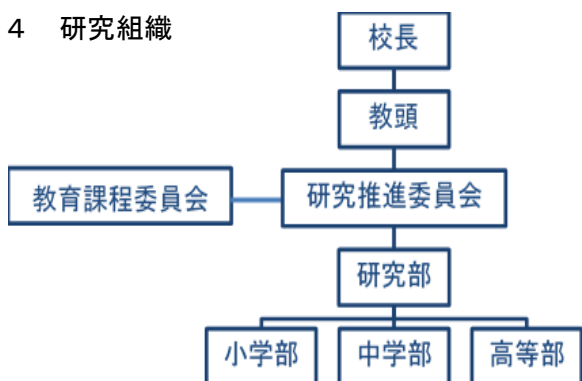


表1 全体の実践における指導の形態及び指導内容

指導の形態及び指導内容		実践数
教科等を合わせた指導	日常生活の指導	1
	遊びの指導	12
	生活単元学習	27
	作業学習	0
教科別の指導	生活	0
	国語	4
	社会	3
	算数・数学	2
	理科	2
	音楽	3
	図画工作・美術	3
	保健体育	6
	職業	1
	家庭	0
自立活動		0
総実践数		64

VI 研究の実際

VI-I 授業研究 (各学部)

1 全体の取組

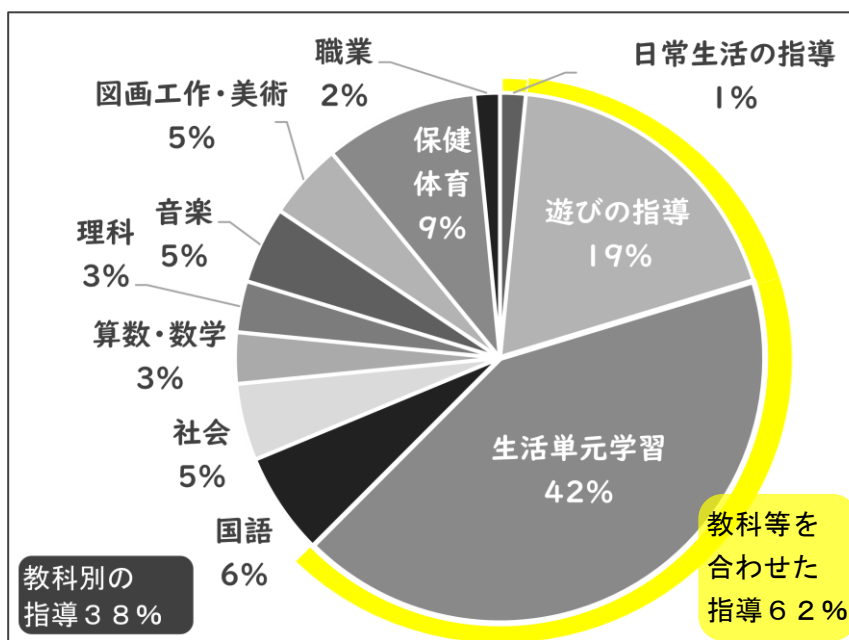
単元シートを活用した実践は以下のとおりである。

(1) 実践数

単元シートを活用した総実践数は64であった。実践した指導の形態や指導内容は表1のとおりである。教科等を合わせた指導は62%，教科別の指導は38%であった(図2)。

(2) 実践の割合

単元の指導に当たる教員61人全員が実践に取り組んだ。実践率は100%である。



2 小学部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

24人の教員が27の実践に取り組んだ。実践した指導の形態や指導内容は表2のとおり、全てが教科等を合わせた指導であった。

(2) 学部研究授業

① 研究授業の概要

小学部4年生の実践である。男子4人、女子3人の計7人の学習集団であり、3人が肢体不自由等の障害を併せ有している。生活単元学習「夏を楽しもう」の単元における実践である。単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート(資料編「実践資料P.1, 2」)に示す。9月2日に、小単元「盆踊りでおはやしのリズムを感じよう」において研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート(資料編「実践資料P.3, 4」)に示す。

表2 小学部の実践における指導の形態及び指導内容

指導の形態及び指導内容		実践数
教科等を合わせた指導	日常生活の指導	1
	遊びの指導	12
	生活単元学習	14
教科別の指導		0
自立活動		0

② 事前検討会（資料編「研究通信No.16」）

研究部より研究の経過や授業参観の方法を確かめた上で、授業者が単元や本時の学習について説明した。その後の質疑応答を行い、生活科や図画工作科の教科等についての実態に応じた資質・能力の捉え方や、本時で大切にしたい資質・能力などについて、授業者と参観者で共有した。

③ 研究授業

当日は、2人欠席のため児童5人の学習であった。導入で盆踊りを踊ったときには、教師の支援を受けながらやぐらの周りに集まった児童もいたが、学習の終末では、自分の作った飾りに手を伸ばしたり、進んで盆踊りを楽しんだりする姿が見られた。やぐらの制作をとおして、やぐらや盆踊りへの意識を高めていた児童の様子を伺うことができた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.20, 21」）

授業者からの自評を受けて、ワークショップ型の検討会を実施した。ワークショップの二つの視点と、検討された主な内容を表3に示す。また、二つの視点の他に、授業における教員間の連携がスムーズであったことが挙げられ、単元シートにおいて個の目標が共有できていたことが効果的であったという意見があった。

表3 事後検討会の主な内容

<p>視点1：個の資質・能力を育成する単元になっているか（主に単元シートの検討）</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏を感じる魅力的な教材や活動が取り入れられていて、あらゆる角度から資質・能力を育成する単元になっている。 ・個別の目標や手立てがとても詳しく明記されていて、どの小単元のどの活動でアプローチしていくのか、イメージしやすかった。 ・教員間で個別の目標が共有されていて、児童への支援が目標に向かったものになっていた。 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の活動が、始めで学習したことを単元の終わりで活用するなど、単元の構成を工夫することで、より資質・能力の育成につながるのではないかな。
<p>視点2：個の資質・能力を育成する学習展開であるか（主に授業シートと授業参観を基に検討）</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態（興味・関心、習熟度等）にあった豊かな選択肢の教材が準備されていて、資質・能力を育成するために工夫されていた。 ・全体（動）→個に応じて（静）→全体（動）の展開で、児童の活動が十分に保障されていた。 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの教室の使い方などの場の設定や、児童の実態に応じた提示の仕方などを工夫すると、より効果的だったのではないかな。

(3) まとめ（成果○、課題▲）

単元シートを活用した実践や意識調査（資料編「研究通信No. 36, 37」）から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 校務支援システムや研究通信で取り上げられた実践や情報を互いに共有しながら、日常的に研究テーマを意識した授業作りに取り組むことができた。
- 単元シートを活用した授業の実践をとおして、それぞれの教員が育成を目指す資質・能力や目標、内容等について理解を深めることができた。
- ティームティーチングを行う教員間で協働的に単元シートを作成することで、単元の目標や個別の目標などを共有して指導に当たることができた。

- ▲単元の振り返りや学習評価を効果的に行うために、育成を目指す資質・能力について具体的に想定して指導に当たることができるようにしていきたい。
- ▲単元シートの有用性をより高めるために、単元シートの記入の方法や活用の機会を考えていきたい。

3 中学部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

10人の教員が10の実践に取り組んだ。実践した指導の形態や指導内容は表4のとおりである。実践の割合は教科等を合わせた指導が90%教科別の指導が10%である。

表4 中学部の実践における指導の形態及び指導内容

指導の形態及び指導内容		実践数
教科等を 合わせた指導	日常生活の指導	0
	生活単元学習	9
	作業学習	0
教科別の指導	保健体育	1
自立活動		0

(2) 学部研究授業

① 研究授業の概要

中学部3年生の実践である。男子5人、女子1人の計6人の学習集団であり、1人が肢体不自由等の障害を併せ有している。生活単元学習「修学旅行へ行こう」の単元における実践である。単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P.7, 8」）に示す。8月30日に、小単元「修学旅行について知ろう」において研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート（資料編「実践資料P.9」）に示す。

② 事前検討会（資料編「研究通信No.24」）

初めに、授業者が単元や本時の学習について説明し、単元や授業のねらいについてのイメージを共有した。その後の質疑応答では、単元の導入で修学旅行への期待感を高める工夫についての意見が多く出された。このような工夫は意欲の継続、さらには単元をとおして資質・能力を育成することにもつながることを確かめた。

③ 研究授業

学習の導入部分では、小学部での修学旅行の写真をテレビモニターで提示した。生徒はモニターを食い入るように見て、楽しかった思い出を想起し、これからの学習に期待を高めていた。次に、○×クイズに答えながら、修学旅行やその目的を意識できるようにした。展開部では修学旅行の行程を知りみんなで協力して予定表を作った。生徒は、友達と教え合ったり、教師の支援を受けたりして修学旅行の予定を一つ一つ確かめながら予定表を作成していた。このように、提示された資料を見たり教師の話の聞いたりしたことを表現する機会を持つことで学習内容の定着を図ることができた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.27, 28, 32」）

授業者からの自評を受けて、ワークショップ型の検討会を実施した。ワークショップの二つの視点と、検討された主な内容を表5に示す。また、二つの視点の他に、単元シートの作成や授業作りについて、これまで疑問に思っていたことを互いに出し合い、教員間で共有することができた。

表5 事後検討会の主な内容

視点1:個の資質・能力を育成する単元になっているか（主に単元シートの検討）
<成果>
<ul style="list-style-type: none"> ・「本単元における個別の目標」に迫ることができる「主な学習内容」になっていて有効である。 ・個別の目標が実態に合わせて具体的に立てられている。 ・本時の期待感が後に単元の個別の目標につながっていく。
<改善点>

- ・個別の目標が自然に授業に反映できる計画や内容を検討し、いかに一人一人の目標に迫れるようにするか指導を工夫したい。
- ・単元シートの個別の目標と授業シートの学習内容の関連が少ない場合、メモ欄を効果的に活用していきたい。

視点2:個の資質・能力を育成する学習展開であるか(主に授業シートと授業参観を基に検討)

- ・楽しい雰囲気を作られていた。
- ・予定表で日程が分かる工夫がされていた。
- ・動画で実際の行程を見せたことは、イメージを持ちやすく、有効であった。

<課題>

- ・生徒の意欲を高めるための手立てをさらに工夫したい。
- ・動画を見終わったら、ポイントを整理したり、振り返ったりする時間も必要である。

(3) まとめ(成果○, 課題▲)

単元シートを活用した実践や意識調査(資料編「研究通信No. 38, 39」)から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 日々の実践をとおして、単元の目標と各教科等の育成を目指す資質・能力との関連を踏まえて実践する意識がより高まった。
- 学習指導要領で示されている目標及び内容について、小学部段階まで下ろして適切な目標を設定するなど、それぞれの生徒の段階を踏まえて実践する意識が高まった。
- 生徒一人一人の目標や手立てを踏まえ、教員間で協働しながら学習内容を検討したり、単元の反省を共有することができた。
- 研究授業や事後検討会をとおして、単元シートを作る上で感じていた「育成を目指す主な教科等の資質・能力」と「個別の目標」の捉え方についての疑問を共有することができた。
- ▲目標や手立てを踏まえて、生徒の学習の様子を丁寧に記録していきたい。
- ▲単元シートを活用することに効果は感じているが、作成することに負担を感じる。

4 高等部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

27人の教員が27の実践に取り組んだ。実践した指導の形態や指導内容は表6のとおりである。実践の割合は教科等を合わせた指導が15%教科別の指導が85%である。

(2) 学部研究授業

① 研究授業の概要

高等部2年生の実践である。男子3人、女子1人の計4人の学習集団であり、全員が卒業後に一般就労を希望している。数学「金銭」の単元における実践である。単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート(資料編「実践資料P. 12, 13」)に示す。10月14日に、小単元「買い物の計画を立てよう」において研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート(資料編「実践資料P. 14」)に示す。

② 事前検討会(資料編「研究通信No.30」)

表6 高等部の実践における指導の形態及び指導内容

指導の形態及び指導内容		実践数
教科等を合わせた指導	日常生活の指導	0
	生活単元学習	4
	作業学習	0
教科別の指導	国語	4
	社会	3
	数学	2
	理科	2
	音楽	3
	美術	3
	保健体育	5
	職業	1
家庭	0	
自立活動		0

研究部が研究主題・副題を確かめた上で、授業者が単元や本時の学習について説明した。研究部より学習指導要領改訂に伴い、数学における「金銭」の取り扱いが変わったことを補足説明した。その後、ワークショップ型の検討会を実施した。ワークショップの三つの視点と、検討した主な内容を表7に示す。事前検討会を経て、研究授業の単元における育成を目指す資質・能力、個別の目標を改善した。

表7 事前検討会の主な内容

視点1:育成を目指す資質・能力を基にした単元の目標になっているか
<検討した結果> ・単元の目標は「金銭の取り扱い」について設定しているが、育成を目指す資質能力には「数と計算」「変化と関係」「データの活用」を設定しており、二つを関連させて捉えることが難しい。
視点2:育成を目指す資質・能力を基にした個別の目標となっているか
<検討した結果> ・単元の計画に合わせて、個別の目標をより実態に合わせることはできるのではないか。
視点3:単元の目標を達成するための単元計画であるか
<検討した結果> ・単元の目標は卒業後必要な力であり、それを達成できる単元の計画である。

③ 研究授業

学習の導入部分では、プリントを使用して消費税や割引の復習を行った。生徒は、前時まで学習したことを思い出しながら問題を解くことができた。展開部分では、「クラスメイトと一緒に楽しみ会をする」というテーマで広告から商品を選択する活動をした。生徒同士ペアを組むことで、合計金額が予算内になるように相談しながら商品を選択することができた。次に、使った金額をグラフ化することで、使った金額の増減を比較することができた。まとめでは、実生活でも使用した金銭をグラフ化したりすることで、金銭を管理できることを知ることができた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.31」）

授業者からの自評を受けて、ワークショップ型の検討会を実施した。ワークショップの二つの視点と、検討された主な内容を表8に示す。また、二つの視点の他に、時数に対して「育成を目指す資質・能力」が多いため、新しい学習指導要領を踏まえた「金銭の学習」の在り方を検討していきたいなどの考えが挙げられた。

表8 事後検討会の主な内容

視点1:育成を目指す資質・能力を基にした学習展開であったか
<検討した結果> ・グラフ化することで金額の増減が視覚的に分かりやすかった。 ・日常生活における加減が必要となる場面が設定してある。
視点2:資質・能力を育成するため、より効果的な学習活動や単元計画の案や工夫などの検討
<検討した結果> ・「変化と関係」の資質・能力を育成するためには、関数を取り扱う別の単元を設定した方が効果的ではないか。 ・「データの活用」の資質・能力を育成するためにはより多くのデータを扱えるとよいと思う。

(3) まとめ（成果○、課題▲）

単元シートを活用した実践や意識調査（資料編「研究通信No. 40, 41」）から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 単元シートを活用することで学習指導要領や教育課程を確認しながら各教科等の育成を目指す資質・能力と単元の関連を踏まえた計画を考えることができた。
- 単元シートを作成し検討し合うことで、教科等の育成を目指す資質・能力に対して効果的な指導の形態を考えることができた。
- 単元シートを作成するときに、生徒一人一人の目標や手立てを考え、授業者間で共有することができた。
- ▲単元シートは効果的な手段ではあるが、作成にかなり時間がかかる。
- ▲単元シートの個別の目標や評価と個別の指導計画を関連させ効率化を図りたい。

VI-Ⅱ 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）

1 校内研修

(1) 今年度の取組について（4月12日：研修①）

昨年度の成果や課題を確認した上で、教員一人一人の実践を基に研究の検証を行うことについて確かめた。（資料編「研究通信No. 1」）

(2) 単元シート・授業シートについて（5月10日：研修②）

単元シートの記載内容や作成方法について確認した。（資料編「研究通信No. 2」）

(3) 単元シートの作成について（6月21日：研修③）

小学部と中学部の学習指導要領の関連を意識して、生活単元学習の学習活動を検討するワークショップ型研修を実施した。研修後のアンケートからは「小・中・高の段階のつながりを意識することができた。」「このような授業作りを今後も実践していきたい。」などの感想を得ることができた。（資料編「研究通信No. 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12」）

(4) 専門機関の講師を招いた研修会の開催について（8月20日：研修④）

講演会の講師に文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の加藤宏昭氏を迎え、本校主催の研修会を東松島市において開催する予定であった。開催直前に、東京都において感染症対応の緊急事態宣言が発令されたため、リモートによる研修会を開催した。県内の特別支援学校校長会の後援を得て、県内の教員の参加を予定していたが、研修会の対象も本校の職員のみに変更した。

研修会後のアンケートには、「校内研究の取組と新しい学習指導要領の内容が繋がっていることを再確認することができた。」「単元シートについて『シンプルにまとまっている。』と、御意見をいただき実践への意欲が高まった。」などの意見があった。なお、講師の公演は、後述するWEB公開で視聴できるようにした。（資料編「研究通信No. 17, 18」）

(5) 学部研究授業（事前検討会・事後検討会）の実施（研修⑤⑥）

先述のとおり、各学部の実情に応じた取組を工夫しながら研究授業を実施した。事前検討会や事後検討会が研修の機会となるよう、研究の進捗状況を確認したり、全員参加型のワークショップ型検討会を実施したりした。

(6) 学部研究のまとめと共有について（1月27日：研修⑦, 1月31日：研修⑧⑨）

各学部の研究授業や単元シートを活用した実践、意識調査の結果などを整理したポスターを作成及び発表をし、学部研究について全体で共有した（図3～5）。また、第二回研究全体会において、今年度の研究のまとめと次年度の研究テーマについて確認した。

（資料編「学部研究まとめのポスター」）



図3 小学部研究ポスター発表
（視聴堂室）



図4 中学部研究ポスター発表
（プレイルーム）



図5 高等部研究ポスター発表（体育館）

2 意識調査（単元の指導に当たる教員対象）

① 目的

各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導に関する教員の意識を調査・分析することで、単元シートの有用性の検証や校内研究の推進のための参考とする。

② 実施期間と対象者数

事前調査（n＝62）：4月26日～5月5日，対象者62人，回収率100%

（資料編「研究通信No. 14, 15, 29」）

事後調査（n＝58）：12月17日～12月24日，対象者60人，回収率97%

（資料編「研究通信No. 36～43」）

③ 設問ごとの調査結果と考察（資料編「意識調査用紙（事後調査）」）

前期及び後期の調査結果の比較と考察を以下に示す。なお、事後調査の設問8，9は、設問7の実践回数（TTを含む）とクロス集計を行った（図4～13）。

設問1

単元の目標と、各教科等の育成を目指す資質・能力との関連を踏まえて実践している。

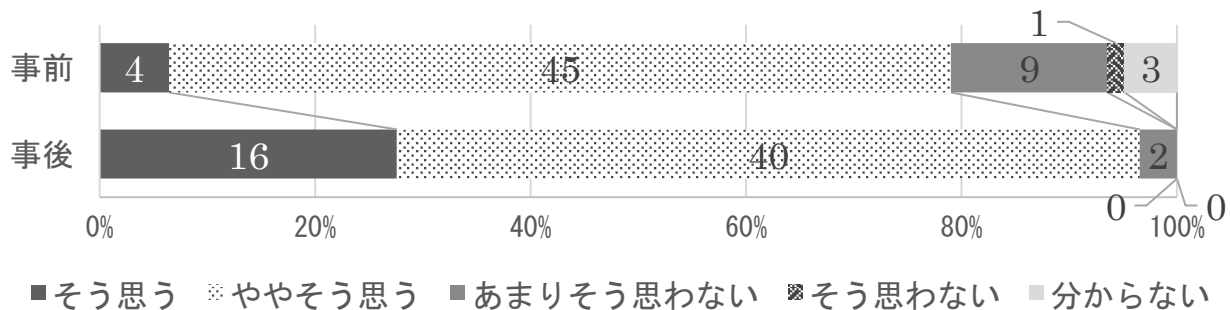


図6 設問1：事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答が増えた。「そう思う」が20%以上増加し、「そう思わない」の回答がなくなった。自由記述欄には「学習指導要領や教育課程を見ながら単元計画を考える良い機会になった。」「学習指導要領を日々の授業に生かす意識が高まった。」などの記述があった。これらのことから、単元の目標と、各教科等の育成を目指す資質・能力との関連を意識して指導を行う教員が増えたと言える。

設問2

学習指導要領で示されている目標及び内容について、当該の段階と下の学年の段階の児童生徒が学習集団を形成している場合、それぞれの児童生徒の段階を踏まえて実践している。

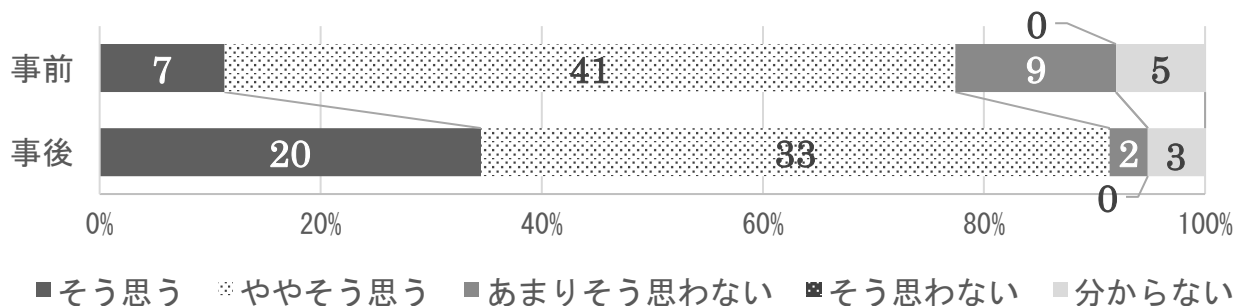


図7 設問2：事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答が10%以上増加し、他の回答に比べ「そう思う」が大きく増えた。自由記述欄には「個別の目標を立てることで、一人一人が何を目指すかがはっきりし、手立てを考えやすくなっ

た。」などの記述があった。これらのことから、当該の段階と下の学年の段階の目標及び内容を明確にして実践する意識が高まったと言える。

また、自由記述欄には「段階と生徒の実態との相関を考えながら、目標や学習内容を考える力が必要だと感じた。」や「個別の目標を落とすすぎた。」など、個に応じた目標設定に関する記述や「個別の目標が個人ごとに明記されていて分かりやすい反面、情報量が多いと感じる。」など、単元シートの情報量に関する記述があった。個別の目標を記載する部分については、単元シートの様式を含めた、より効果的な活用方法を検討していく必要があると言える。

設問3

学習集団を形成している児童生徒一人一人の目標や手立てを踏まえ、教員間で協働しながら学習内容を検討している。

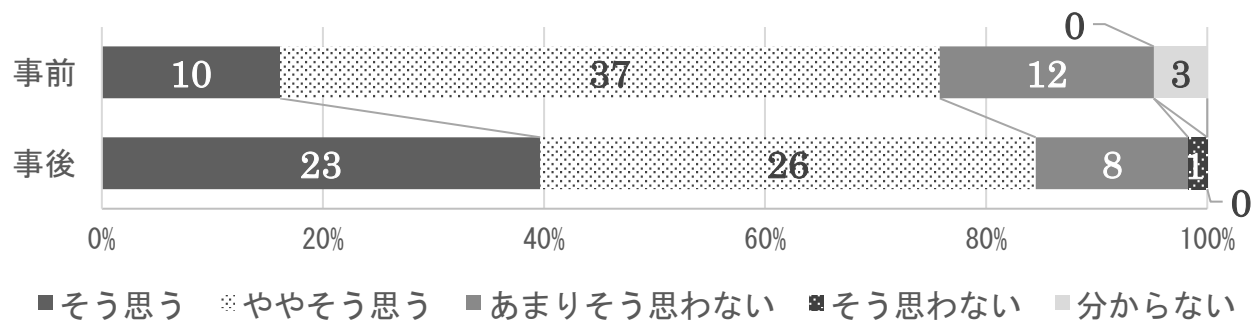


図8 設問3：事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答がわずかに増え、「そう思う」の回答の割合が2倍以上になった。自由記述欄には「従来の単元略案よりも単元シートの方が作成しやすく、教員間で授業を作っている感じがしてよかった。」や「教員間で話し合いを重ねる中で、実態や目標の共通理解が図れるのでよいと思った。」などの記述があった。これらのことから、単元シートは、教員間で単元を構想するための効果的なツールとして活用できると言える。

一方で、自由記述欄には「数人の生徒には手立てを意識できるが限界がある。T2, T3になると単元シートが意識されにくい。」や「学習集団の大きさや単元の構成によっては、シートの活用が難しいと感じた。」などの記述もあった。学習集団や単元に応じた単元シートの活用方法を検討していきたい。

設問4

単元の指導をする中で、児童生徒の目標や手立てを踏まえ、学びの姿や配慮事項を記録している。

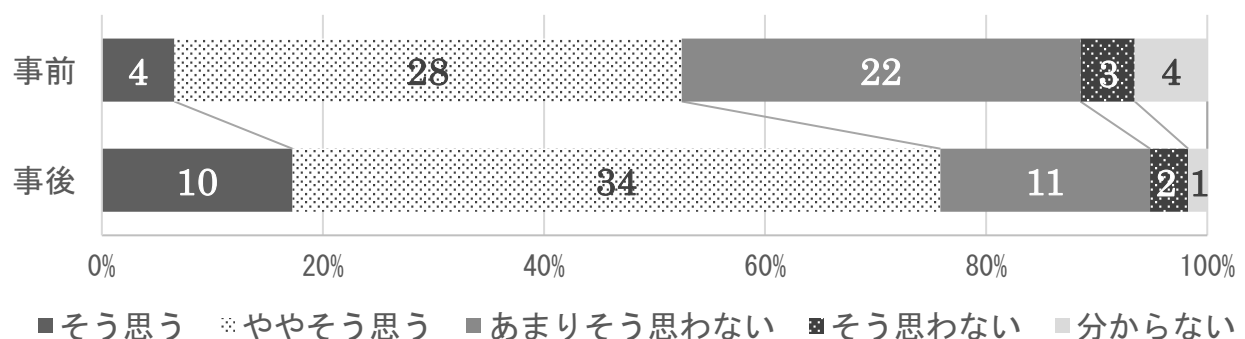


図9 設問4：事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答が20%程度増えた。自由記述欄には「個別の目標、メモ欄にそれぞれ記入することで、全員の目標、配慮等を確認し、授業に臨むことができた。」といった回答があった。目標や手立てを踏まえ、学びの姿や配慮事項を記録する意識が高まったと言える。

設問5

児童生徒一人一人の学習状況を踏まえた上で、単元における学習評価をしている。

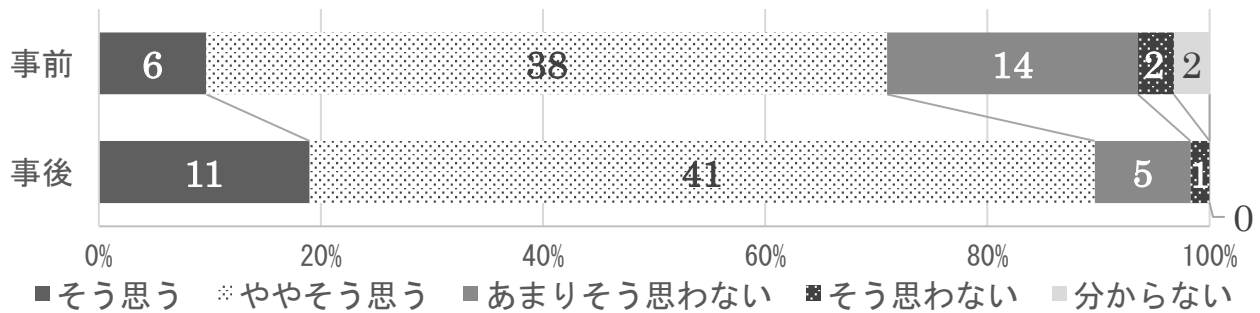


図10 設問5:事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答が20%程度増えた。自由記述欄には「評価したものを個別の指導計画に書きやすい。」といった記述があった。一方で、「さらに個別の指導計画と合わせて考えたい。」や「個別の評価の観点明確でないように感じることもある。」といった記述もあった。全体的には、児童生徒一人一人の学習状況を踏まえた上で、学習評価をする意識が高まったと言えるが、個別の指導計画の活用へつなげる点においては個人差があると言える。

設問6

児童生徒の学びの姿や学習評価を踏まえた上で、単元の指導についての反省を教員間で共有している。

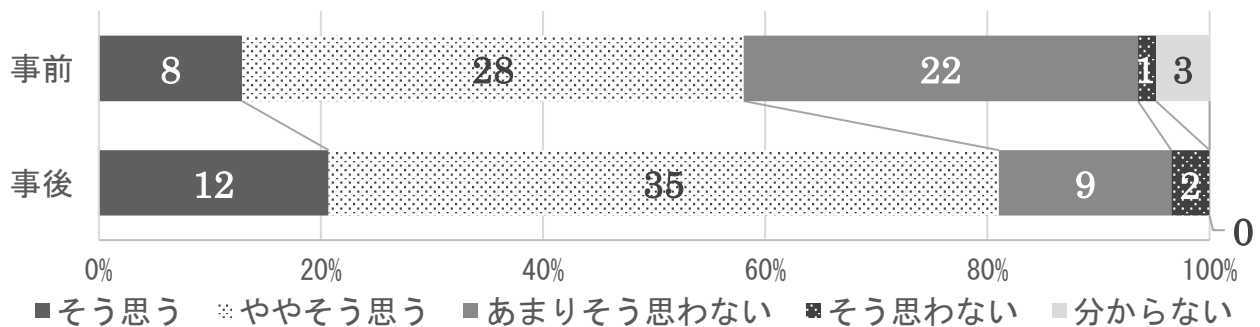


図11 設問6:事前調査と事後調査の比較

<考察>

肯定的な回答が20%以上増えた一方で、自由記述欄には「単元の反省と全体の学習評価の両方ではなく、単元の反省だけでよいと思う。」や「評価を次年度の改善につなげたい。」といった記述があった。これらのことから、単元の指導についての反省を教員間で共有する意識が高まっているものの、反省内容が単元計画の改善には至っていないことが考察できる。

設問7×設問8

単元シートを活用することに効果を感じている。【左:%, 右:(人)】

	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない	分からない
3回以上の実践(n=24)	54% (13)	42% (10)	4% (1)	0% (0)	0% (0)
2回の実践(n=12)	25% (3)	58% (7)	10% (1)	0% (0)	8% (1)
1回の実践(n=21)	5% (1)	43% (9)	38% (8)	10% (2)	5% (1)

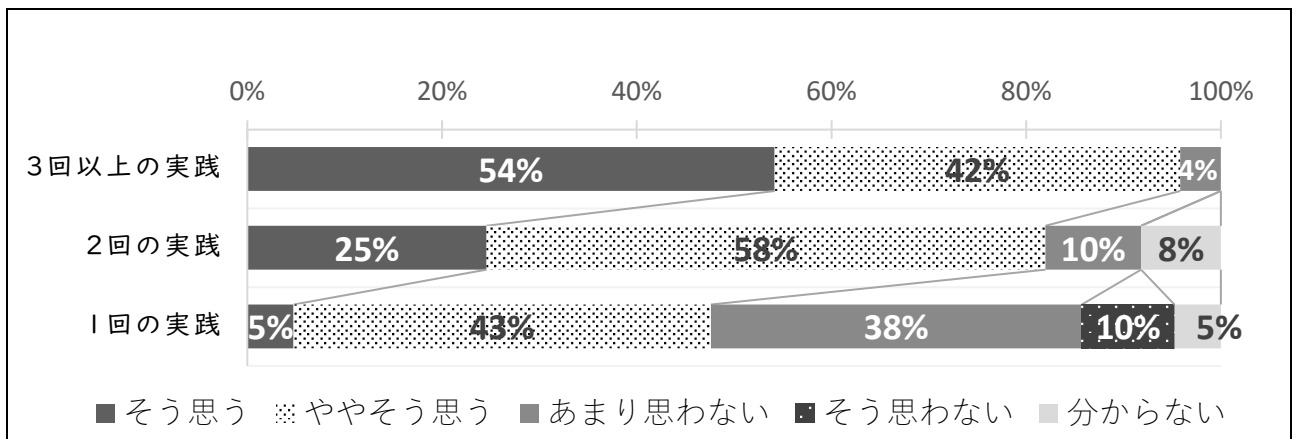


図12 設問7×設問8:実践回数と感じた単元シートの効果

<考察>

単元シートを活用した実践の回数に比例して効果を感じている割合が大きい。さらに、「そう思う」「ややそう思う」と答えた総数は、実践が1回の際は半数以下なのに対して、3回以上のについては9割を大きく超えており、実践回数と感じた効果には明確な関連が認められた。複数回活用した教員の自由記述欄には、「単元で何をめざして実践していくか具体的になった。」「目指す資質・能力や個別の目標や段階を確認するには、必要なツールだと思った。」などの記述があった。育成を目指す資質・能力を踏まえて単元を構想するに当たり、単元シートは、繰り返し活用することでより効果を得られるツールであると言える。

設問7×設問9

単元シートを作成することに負担を感じた。【左:%，右:(人)】

	■ そう思う	■ ややそう思う	■ あまり思わない	■ そう思わない	■ 分からない
3回以上の実践(n=24)	4% (1)	46% (11)	42% (10)	4% (1)	4% (1)
2回の実践(n=12)	17% (2)	33% (4)	8% (1)	42% (5)	0% (0)
1回の実践(n=21)	33% (7)	48% (10)	14% (3)	0% (0)	5% (1)

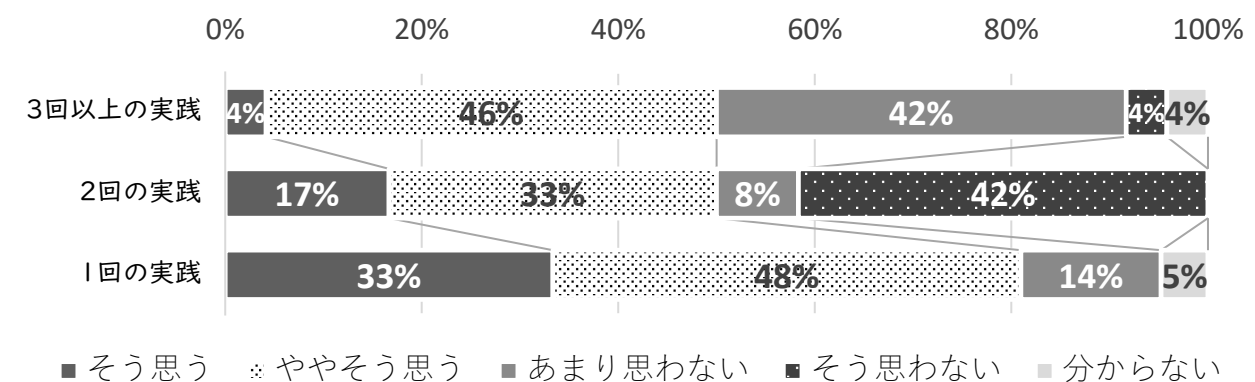


図13 設問7×設問9:事前調査と事後調査の比較

<考察>

単元シートを活用した実践の回数が増えると、負担を感じている教員の数は減少している。「そう思う」の回答については、1回の実践では33%であるのに対し、3回以上の実践では4%と、大幅に減少している。3回以上実践した教員の自由記述欄には「作成はやや負担に思うが、意義はそれ以上にあると思っている。」との回答があった。これらのことから、単元シートは、繰り返し活用することで、負担に増して効果を感じることができるツールであることが考察できる。

また、もっとも負担を感じていないのが、実践が2回の教員であった。繰り返し活用することで、単元シートを作成する見通しが持てるようになり、1年間に2回程度の活用であれば大きな負担なく取り組むことができると考えられる。

④意識調査の考察

事前調査と事後調査を比較すると全ての設問について肯定的な回答が大きく増えている。また、単元シートを活用する効果についても多くの教員が感じている。これらのことから、育成を目指す資質・能力を踏まえた指導を工夫していく上で、単元シートは効果的なツールであると言える。

一方で、教員は単元シート作成の負担を少なからず感じており、特に「単元における個別の目標」について、作成する上で時間を要することや活用する上で情報量の多さを感じていることが分かった。普段の取組の様子から、個別の目標は必要な項目であることを理解しているものの、日々の実践をとおして大まかな目標を共有しているため、時間を割いて単元シートに記載することが負担となっていることが考察できる。

また、単元シートの有用性や汎用性を高めることは、活用の負担感の軽減につながるものと考えられる。自由記述欄には、「次年度への引継ぎ」や「個別の指導計画との関連」などへ、単元シートの活用を期待する意見が散見された。このような意見を取り入れながら、単元シートの様式の工夫や活用方法を検討し、校内研究を深めていきたい。

3 授業実践の資料や計画の共有

教員が実践にあたり作成した単元シートや授業シートを校務システムを活用して共有した。また、WEBカレンダー (<https://03sekishikenkyu.apage.jp/>) を活用し、実践の計画を週に一度知らせるようにした。定期的な実践の資料や計画を共有することで、全員が実践に取り組む雰囲気を醸成することができた。

一方で、実践の共有が資料のみになることが多く、互いの授業を見合うことができなかつたという課題が残った。短い時間でも、授業の雰囲気や児童生徒と教師のやり取りを参観できるような研究の進め方を工夫していく必要がある。



図14 単元シートや研究通信などを共有した掲示版



図15 昨年度高等部印刷室に新設した研究掲示コーナー

4 環境の整備

職員用掲示版(図14, 15)や資料コーナー(図16)の整備を行い、教員が校内研究の取組に触れる機会を多く持てるようにした。



図16 書籍や蓄積した研究通信を閲覧できるようにした資料コーナー

5 研究通信の発行

単元シートを活用した実践の共有や校内研究の取組に関連する文献の紹介などを目的に研究通信を作成した。教員対象の意識調査には「研究通信によって、研究内容を日々意識できる働き掛けがよかった。」という意見があった。発行した研究通信の主な内容は表9のとおりである。なお、本研究紀要の資料として、研究通信を添付する。

表9 発行した研究通信と主な内容

No.	発行日	主な内容	No.	発行日	主な内容
1	4/19	第1回研究全体会	24	9/30	中学部研究授業事前検討会
2	5/10	単元シートの説明	25	10/4	夏季研修会振り返り「学習活動」
3	6/3	実践の共有方法	26	10/14	季刊誌「特別支援教育『秋』」
4	6/18	校内研修等の予定	27	10/18	中学部研究授業事後検討会①
5	6/25	校内研修ワークショップの感想①	28	10/20	中学部研究授業事後検討会②
6	6/30	校内研修ワークショップの感想②	29	10/22	事前意識調査の結果③
7	7/7	校内研修ワークショップの感想③	30	10/28	高等部研究授業事前検討会
8	7/9	校内研修ワークショップの感想④	31	10/28	高等部研究授業事後検討会
9	7/14	季刊誌「特別支援教育『夏』」	32	11/24	中学部研究授業事後検討会③
10	7/16	校内研修ワークショップの感想⑤	33	12/23	WEB公開報告①
11	7/19	校内研修ワークショップの感想⑥	34	12/23	WEB公開報告②
12	7/21	校内研修ワークショップの感想⑦	35	12/23	WEB公開報告③
13	7/29	中学部の実践からの学び	36	1/7	小学部意識調査結果①
14	8/17	事前意識調査の結果①	37	1/7	小学部意識調査結果②
15	9/3	事前意識調査の結果②	38	1/7	中学部意識調査結果①
16	9/1	小学部研究授業事前検討会	39	1/7	中学部意識調査結果②
17	9/7	夏季研修会アンケート①	40	1/7	高等部意識調査結果①
18	9/7	夏季研修会アンケート②	41	1/7	高等部意識調査結果②
19	9/16	夏季研修会振り返り「実態把握」	42	1/11	意識調査結果（設問2）
20	9/17	小学部研究授業事後検討会①	43	1/11	意識調査結果（クロス集計）
21	9/17	小学部研究授業事後検討会①	44	1/14	研究全体会のタイム・スケジュール
22	9/24	夏季研修会振り返り「学習内容」	45	1/27	感染症対応版研究全体会
23	9/30	夏季研修会振り返り「学習方法」	46	2/3	最終号

VI-III 研究の公開

1 関係機関への公開（資料編「研究通信No. 19, 22, 23, 25」）

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の加藤宏昭氏に校内研究の取組を伝えた。送付した資料を表10に示す。また、先述の夏季研修会の講演において、送付した資料を基に助言をいただいた。講演内容を研究通信で振り返り、研究の推進に活用した。

表10 加藤氏に送付した資料

令和2年度研究紀要（研究授業の単元シートを含む）	令和2年度研究通信
令和2年度学部研究ポスター	令和3年度校内研修資料（研修①～③）
令和3年度研究通信（No. 1～13）	単元シート作成の説明動画（オンデマンド）

2 WEB公開（資料編「研究通信No.33, 34, 35」）

（1）形態

本校の校内研究の取組を幅広く周知し、その内容についての助言を今後の校内研究の推進に活用するために、自主公開研究会を行った。社会情勢を考慮し、オンラインでの開催とした。

（2）公開期間

令和3年12月6日（月）から12月17日（金）

（3）公開対象

宮城県内各学校及び各種研修会情報ウェブサイト（「教育ZINE」「SENSEIイベントポータル」「こくちーずプロ」）で参加者を公募した。

(4) 公開内容

夏季研修会において本校で開催した講演会の動画に加え、校内研究を説明する動画等を作成し、動画投稿サイトYouTubeで視聴できるようにした。また、資料として各学部の研究授業の単元シートや授業シート、研究通信等をウェブサイトに掲載した(表11)。なお、ウェブサイトはGoogleサイトを用いて作成し、資料はGoogleドライブの共有機能を使用した。ウェブサイトの下部にはGoogleフォームのアンケートを設置した(図14)。

表11 公開した資料

種類	タイトル
動画	「校長挨拶」
	「校内研究の概要」
	「講演『各教科等の育成を目指す資質・能力における目標・評価の在り方』」
	「小学部研究授業について」
	「中学部研究授業について」
	「高等部研究授業について」
資料	研究構想図
	小学部4年研究授業単元シート・授業シート「生活単元学習 夏を楽しもう」
	小学部2・3年単元シート「遊びの指導 感触遊びをしよう」
	小学部6年単元シート「生活単元学習 修学旅行へ行こう」
	中学部3年研究授業単元シート・授業シート「生活単元学習 修学旅行へ行こう」
	中学部1年単元シート「生活単元学習 前期を振り返ろう」
	中学部2年単元シート「生活単元学習 夏を楽しく」
	高等部2年研究授業単元シート・授業シート・ワークシート「数学 金銭」
	高等部2年単元シート「理科 身の回りの不思議」
	高等部3年単元シート「美術 造形作品を考えよう」
	研究通信No. 16, 20, 21, 24, 27, 28, 30, 31, 32



図14 WEBサイトの外観

(5) 公開記録

公開の記録をGoogleフォームやGoogleアナリティクス等を用いて整理した。ウェブサイトへのアクセスとしては、約17都道府県から200件近くの参加があった。講演会の動画の視聴申込は59

件あり、校内研修の一環として視聴した学校もあった。YouTubeにアップロードした動画の合計視聴回数は627回で、平均視聴時間は6分34秒、平均再生率は31.72%だった（表12）。

表12 動画へのアクセス

動画のタイトル	視聴回数	平均視聴時間	平均再生率
「校長挨拶」	64	1分45秒	59.14%
「校内研究の概要」	160	3分30秒	39.40%
「講演『各教科等の育成を目指す資質・能力における目標・評価の在り方』」	98	22分42秒	27.89%
「小学部研究授業について」	90	3分58秒	43.19%
「中学部研究授業について」	62	3分16秒	33.94%
「高等部研究授業について」	52	3分38秒	37.21%

また、アンケートへの回答が16件あった。アンケートの回答から、所属は「特別支援学校」が75%、「教育委員会」が12.5%、「その他（一般企業）」が12.5%であった。職名は「指導主事」が25%、「教諭」が25.5%等、様々であった。研究会の開催を知ったきっかけとしては、「所属校に届いた案内を見て」と「上司や知人からの紹介」が37.5%と上位を占めた。16名のほとんどが公開研究会に満足し、参考になったと回答した。自由記述では、「単元シートの考え方及び活用について、参考になった」、「単元シートと三観点の関わりが分かりやすい」といった、単元シートの有用性についての記述が数多く見られた。要望としては、「公開期間がやや短い」、「プレゼンテーションの資料もあるとよい」、「SWANからだと資料へのアクセスが難しい」といった、公開期間や資料の公開方法についての記述が見られた。

(6) まとめ（成果○、課題▲）

校内研究を公開した成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 本校の校内研究を幅広く周知することができた。
- 公開する資料を作成するに当たって、これまでの校内研究の取組を振り返ったり整理したりしたことで、本研究の良さや課題を確認することができた。
- ▲本校の校内研究への意見をより多く集めるため、アンケートの実施方法を工夫したい。
- ▲公開研究会の参加者が本校の校内研究をより理解することができるよう、公開期間や資料の公開方法を検討したい。

Ⅶ 研究のまとめ

校内研究の主な成果と課題は以下のとおりである。

1 成果

- (1) 単元や題材の指導に当たる全ての教員が単元シートを活用した授業実践を行うことができた。また、実践した上で感じた単元シートの効果や疑問点などを、研究授業の検討会及び研究通信やポスター発表などとおして共有することができた。
- (2) 関係機関に研究内容を伝えて助言を得たり、WEBを活用して研究を公開したりしたことで、学校全体で研究に取り組む雰囲気が醸成された。また、得た助言を教員間で共有したり、公開する内容を整理したりしたことで、研究内容の理解が深まった。
- (3) 校務システムやWEBカレンダーを活用して日々の実践を共有したり、研究通信や職員掲示板を活用して研究関連の情報を共有したりしたことで、日常的に研究テーマを意識して実践する機会が増え、研究の推進につながった。
- (4) 多くの教員が単元シートの効果を感じており、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて実践する意識が高まったことが、意識調査などから分かった。学校の教育目標の具現化に向けて校内研究を進めることができた。

2 課題

- (1) およそ6割の教員が単元シートを作成することに負担を感じていることが課題である。負担を軽減する単元シートの様式や活用方法を検討したい。また、教育課程の改善や個別の指導計画の活用など、単元シートの汎用性を高める方法を検討したい。
- (2) 各教科等の育成を目指す資質・能力について理解を深めていくことが課題である。研究授業で検討することで資質・能力について理解を深めることができた一方で、日々の実践において、資質・能力の捉え方を十分に共有できないことがあった。単元シートをより効果的に活用することで、学習指導要領で示された資質・能力についての理解を深めていきたい。
- (3) 全ての教員が実践することができた一方で、互いの実践を参観することができなかったことが課題として残った。全職員参加型の校内研究を目指し、計画的な授業実践を進めていきたい。

【主な参考文献】

[1]宮城県立石巻支援学校：「令和2年度研究紀要」	2021
[2]文部科学省：「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」	2017
[3]文部科学省：「文部科学省：特別支援学校高等部学習指導要領」	2019
[4]中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」	2018

あ と が き

知的障害のある児童生徒の特徴や学習上の特性として、学習で得た知識や技能が断片的になりやすく実際の生活の場で応用されにくい、成功体験の少なさから主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない、抽象的な内容よりも実際の・具体的な内容の指導の方が効果的である、などが挙げられます。このような特性から知的障害教育では、児童生徒の主体性を重視し、より具体的で実生活に即した授業の実践が求められてきました。しかしその一方で、授業の目標や内容、評価等の曖昧さ、特に各教科等との関連が不明瞭であるとの指摘もあります。

この度の学習指導要領の改訂では、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され、知的障害のある児童生徒のための教育においては、各教科等の目指すべき資質・能力の育成が明確に示されました。この明確になった資質・能力の三つの柱を授業や個別の指導計画の中にどう落とし込んでいくかが課題として浮き彫りになりました。

そこで、研究主題を「各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえた指導の工夫」とし、2年間の研究に取り組んで参りました。今年度はそのまとめの年になります。本研究の初年度は副題に「－教員間で活用する「単元シート」の作成を通して－」と設定し、育てたい三つの柱を単元の中に一目で分かるようにするための様式、単元シートの作成を探ってきました。そして今年度は「－「単元シート」の活用をとおして－」を副題とし、単元シートを活用した授業実践の積み重ねによってその実効性について検証してきました。何よりもこの単元シートを活用した研究授業に、全教職員が一人一実践以上取り組んだ試みは、研究当初からの目的でもあります“全員参加型の共同研究”に、少しでも近づけたのではないかと考えております。

単元シートの活用により、各教科等における資質・能力が明確になり、「何を学ぶか」が見えてきました。次の段階としましては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方、つまり「どのように学ぶか」に主眼を置いた授業づくりが課題となります。各教科の目標、内容、方法、評価が一体化してこそ本研究主題の本質に迫ることができることを念頭に置きつつ、今後も教職員一丸となって研修・研鑽に励んで参ります。

最後になりましたが、丁寧な御指導により、本校の研究に向かう指針と励ましを賜りました文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 加藤 宏昭 様はじめWebを御視聴いただき温かいお言葉と御助言をいただきました全国、県内の皆様、多くの関係機関の皆様に心より御礼申し上げます。

令和4年3月吉日

宮城県立石巻支援学校 教頭 大山 直樹

令和3年度 研究同人

校長 三浦由美 教頭 大山直樹 教頭 中澤輝博

尾形典子 千田健二 須田幸子 及川美和 青山のり子
中鉢佳子 高橋憂季実 豊島花恵 齋藤汐里 横山武弘
桂谷 峯

小学部 (学級順)

三浦喜代 片桐明子 漢人みち 戸田祥子 佐藤まちこ
佐々木由里 平塚志乃 高橋敦子 塩谷祥代 佐藤舞
鈴木裕一 男澤真理子 千葉香子 武川雅子 齋藤光
江川静花 ○ 遠藤仁子 門馬広大 ○ 佐々木耕太 二宮舞
指方珠美 色川信子 ◎ 寺門政彦 齋藤裕美 坂下真也
黒沼千里

中学部 (学級順)

酒井勝利 玉川幸毅 菅原俊浩 村上恵理 菅野真資
伊藤貴之 ○ 後藤綾子 佐久間理恵 阿部克志 木村俊史
早坂威 高橋正俊 千葉佳子

高等部 (学級順)

大森奈津子 ○ 星直哉 小岩郁子 今野修 及川久美子
岡好和 新家優 武山雅俊 清水英美枝 松浦梓
松浦義勝 ○ 伊藤信太郎 阿部ひろみ 柳田敏之 浅野和幸
佐藤翔樹 高橋憲一郎 木村雅江 長谷川史奈 齋藤佳子
大和慶宣 千葉順子 村上美季 佐藤大貴 菊田翔太
阿部三津子 西村和佳子 河野智恵子 中川一郎 ○ 富士原真悟
三浦卓 佐々木貴史

◎研究部長 ○研究部